



2021 年度（令和 3 年度・第 7 期）

事業報告書

1. 2021 年度を振り返って
2. 2021 年度 事業報告書
 - ・ 全体概要および事業内容補足事項
 - ・ 運営に関する事項
3. 2021 年度 活動計算書
4. 2021 年度 貸借対照表
5. 2021 年度 財務諸表の注記
6. 2021 年度 財産目録
7. 監査報告書

認定特定非営利活動法人ポケットサポート

1. 2021 年度を振り返って

2021 年度も世界的に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、私たちの業界だけでなく、この報告書を目にする皆様にとっても、先の見通しが立ちづらかった年ではないでしょうか。しかし、そんなコロナ禍中でも多くの方のご協力やご支援、スタッフたちの頑張りによって、病気を抱える子どもたちへの支援を継続して実施することができました。昨年度にある子どもが言った「時代が俺たち（病気を抱える子どもたち）に追いついてきた」という言葉が、本当にそうなるかのように、オンライン化が子どもたちの追い風となり、より前に進んだこともあった、そんな1年でした。

Mission

(ポケットサポートが社会で果たすべき使命)

①環境をつくる

②生きる力を育む

③人や気持ちを繋ぐ

1 つ目のミッション「環境をつくる」では、今年度も学習支援や復学支援、子どもたちに関わる支援をオンライン化して実施しました。

約5年前から行ってきたICTによる学習支援や、学校行事の中継など、今までポケットサポートが培ってきた様々なノウハウを存分に活かし、病院に入院している子どもたちへのオンライン支援は前年度よりも増加しました。入院中～退院後の自宅療養へ移行した子どもへの支援では、切れ目ないサポートを届けることができました。今年度から開始した週末の「ポケサポデー」は、自宅療養中の中高生たちを中心に、大きな盛り上がりを見せました。同じような病气療養を経験してきた

仲間たちが集うこともあり、病気を抱える10代の若者やきょうだいがそれぞれの立場で経験を語り、励まし合う、そんな姿も見られました。

YouTube ライブ配信による学習講座の配信やイベントも同様に、ステイホーム中の子どもたちやご家族、オンラインのシンポジウムでは全国の支援者の方々とも多く繋がり、活発な意見交換や交流ができました。2021 年度はポケサポならではの新たな学習支援や交流支援、啓発活動を届けるシステムがどんどん出来上がっていったように感じています。

2 つ目のミッション「生きる力を育む」では、今年度を振り返ったときに忘れることはできない、8ヶ月の長期入院、治療を経て自宅療養になった子がいました。彼とは入院から退院後、自宅での長い療養生活の間も、ほぼ毎週のようにオンラインで顔を合わせながら過ごしてきました。笑い合い、ときには不安な姿を見せて相談を受けるなど、大学生の学習支援ボランティア（パートナー）たちと一緒に励ましあいながら過ごす時間もとても長くなっていました。

そんな彼は、この4月から新たな道に歩むため、進学を果たします。特に3月末のオンライン交流支援では、しみじみとした感じを醸し、大学生のパートナーたちと少し涙ぐみながら、挨拶を交わす姿が見られました。お互いに、頑張ってきた姿をずっと見てきたからこそ、「これからがんばるよ～」「みんなも頑張ってるね～」と今までの気持ちやエールが飛び交うシーンは本当に印象的でした。ポケットサポートができる、入院中から退院後まで切れ目ない繋がり、そしてみんなで「生きる力を育んだ」忘れられない事例です。



「ポケサポ相談ダイヤル」にも岡山県内だけでなく、県外からも多くの相談やご連絡をいただきました。特にコロナ禍の復学に関するものが多く、学校側が理解してくれず困惑している状況や、これから就学するにあたってどのような支援を学校へ求めていけば良いかなど、ポケットサポートが復学に関する専門性を求められることが多くありました。ときにはケース会議に出席し情報を提供しながら、毎回、保護者・本人の言葉に耳を傾け、ひとつひとつスタッフが丁寧に対応していききました。子どもや保護者との出会い、相談いただいた内容は、当団体にも大切な財産となっています。

3つ目のミッション「人や気持ちを繋ぐ」では様々な「繋がり」を生むことができました。岡山県教育委員会の「長期療養児教育サポート相談窓口」との協働では、今年度も長期入院を余儀なくされている高校生への遠隔授業のサポートを数件実施することができました。入院中でも所属高校の授業へ参加することができ、学びを途切れさせないということが実際に行える素地が固まってきたように思います。また、入退院を繰り返す子どもが院内学級に在籍をしながらも、院内学級の授業以外の時間に地元の学校とオンラインで交流する取り組みも実現できました。

この事例は医療機関、学校、家族、そして私たち NPO も協働の中に入り、ケース会議と現場での支援実施が行なわれました。「繋がり」といった点で、とても印象的だったのは入院中の A さんと自宅療養中の B さんがオンライン交流の場で繋がったことです。この A さんと B さんは初対面でしたが、同世代と言うこともあり、自己紹介などをした後、そこまで時間をかけることなく関係が育まれていきました。同じように闘病している者同士と言うこともあり、治療中のあるある話や学校生活の事、友達関係の事など気軽に話せる間柄となっていました。特に入院中の A さんは、このことがとても嬉しかったらしく、病院のスタッフに B さんとの話をよくしていたと報告も受

けました。私たちとしても入院中の子どもと自宅療養中の子どもが繋がるということは初めてのことで、オンラインでの支援ならではの事例となりました。

夏には、地元企業の萩原工業様のご支援より、大原美術館様とコラボしてオンラインツアーも実施することができました。小児がんの子どもの支援を行っているチャイルド・ケモ・ハウスさんともコラボし、神戸市のお子さんご家族も参加していただくことができました。感染症対策のため外出が難しい昨今ですが、みんなで楽しく美術について学べる機会を持てたことによって、とても素敵なイベントとなりました。

Yahoo!基金の助成で実施した「みんなで応援 BOX」の配布では、これまでの利用者だけでなく全国から応募があり、新たな関係性を育むことができました。同時に「ひとりじゃないよ」という私たちのメッセージを多くの当事者たちへ届けることもできました。

2022 年度も病気を抱える子どもたちの様々な社会課題の解決に向け、どんな状況下でも安心して学び、交流のできる場を提供できるよう取り組んでいきたいと思っております。支援活動を行っていくために欠かせない、医療機関や学校などの様々な機関・人と、連携・協働しながら、この1年も変わらず病気による困難を抱える子どもたちを支える支援団体として認定 NPO 法人ポケットサポートの応援をよろしくお願いいたします。

代表理事 三好 祐也

2. 2021年度（令和3年度・第7期）事業報告

(1) 病弱児の身体的精神的状態に合わせた学習復学支援事業

事業名	事業内容	区分	支出	受益対象・人数
		開催日時・場所		従事者数
個別学習支援 双方向WEB学習支援	自宅療養中や復学初期の子どもに対しての ICT機器を活用した学習サポート	自主	1,172,832	小中高校生 のべ約30名
		随時・オンライン等		30名
ボランティア育成	学習支援及び相互交流支援を行う人材育成、 オンライン支援に必要なPC等の環境整備	助成	341,626	大学生 のべ約150名
		随時・オンライン等		5名
オンライン支援の 岡山モデル構築	遠隔操作ロボット試作および プレスリリースPR TIMESによる情報発信	助成	1,302,663	小中高校生 のべ約40名
		随時・オンライン等		5名
病気療養する中高生が 安心して学べる環境整備	学校現場で導入されているchromebook導入 現役中高生3名にインタビューした冊子制作	助成	359,747	中高生・教職員 のべ約100名
		随時・オンライン等		5名
		小計	3,176,868	

(2) 病弱児同士の交流や集団での学習活動支援事業

事業名	事業内容	区分	支出	受益対象・人数
		開催日時・場所		従事者数
ポケットスペース運営	利用者の環境に応じた相互交流、 ピアサポート相談、学習支援を実施	受託	2,705,030	小児慢性特定 疾病児童等 のべ約150名
		毎週2回・オンライン		30名
体験交流イベント	季節に応じた交流イベントのオンライン開催	自主	2,267,475	小中高校・若者 のべ約60名
		年間5回・オンライン		10名
きょうだい・家族ケア	クリスマスプレゼント送付、きょうだいへ 知育玩具等のおすそ分けなどを実施 企業からの現物寄付は支援学校等にも配布	自主	2,288,200	当事者家族等 のべ約80名
		随時・郵送等		5名
		小計	7,260,705	

(3) 病弱児への支援に関する啓発・講演活動及び講師派遣事業

事業名	事業内容	区分	支出	受益対象・人数
		開催日時・場所		従事者数
講師派遣事業	大学等に講師を派遣して病弱児支援について 広報、周知活動	謝金	701,197	講演等参加者 約 1,200 名
		年間 9 回・オンライン等		3 名
多職種連携 ネットワークづくり	YouTube ライブ配信による多職種連携の 事例紹介やライブチャットによる質問回答	助成	554,304	全国の関係者 約 340 名
		年間 3 回・オンライン		5 名
アウトリーチ拡大事業	電話相談ダイヤル新設、支援解説動画制作 WEB 広告や動画を活用した啓発活動	助成	1,935,156	当事者家族等 約 100 名
		随時・オンライン等		5 名
		小計	3,190,657	

事業費計：13,628,230 円

個別学習支援、双方向WEB学習支援



▲支援拠点での個別学習支援風景



▲双方向WEB学習支援用ICT機器

- ・今年度も訪問は行わず、主に自宅療養中の子どもに対し、療養中の学習空白を補う学習支援や、受験勉強サポートなどニーズに合わせた支援をオンラインで実施した。
- ・岡山市保健所や岡山県教育委員会、病院のスタッフからの紹介、相談ダイヤルなど様々な方面からの依頼に対応した。
- ・長期入院中の子どもに関する依頼では学校行事の中継のほか、入院中の高校生には所属学校の遠隔授業のサポートも行った。
- ・長期入院から退院後に感染症の不安のある子が自主休校をした際には、約2か月間にわたり学校の授業や宿題の補助など学習空白を補う支援を重点的に行った。

ボランティア育成(新規ボランティア研修、フォローアップ研修)

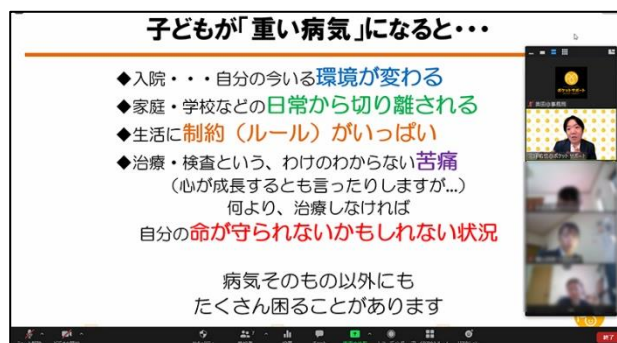
■新規ボランティア説明会および初回研修

開催日：2021年5月15日

- ・岡山県内の大学窓口や団体HPよりボランティアを募集
- ・説明会及び初回研修を受講後に活動開始
- ・年間で10名の新規ボランティア登録者(参加16名中)

■フォローアップ研修

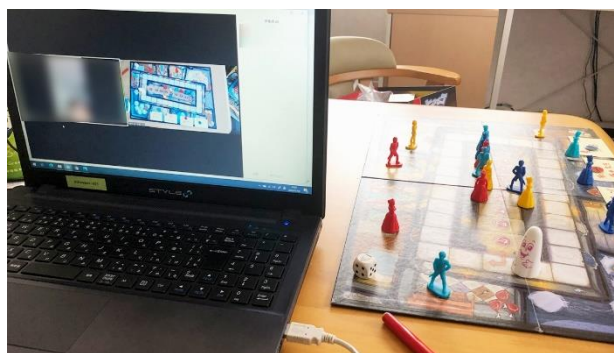
- ・各オンライン支援後に振り返り会を実施
- ・夏祭りやクリスマス会など子どもたちとの交流イベントは、大学生ボランティアと共同で企画することでスキルアップにつなげた。



▲オンライン開催した新規ボランティア説明会

慢性疾病を抱える子どもの相互交流を支援する「ポケットスペース」

- ・ 支援拠点、市内 2 か所の小児病棟を結ぶオンライン支援により、年間延べ 137 名の子どもや保護者と交流や相談、学習支援を実施した。
- ・ 初めてオンライン学習支援や交流支援を利用する子どもたちや保護者が安心して利用できるよう、貸し出し中のタブレット端末に紹介動画を製作し、医療スタッフから事前に説明できるよう準備した。
- ・ Salesforce（セールスフォース）による個別支援事例のデータ蓄積により、支援員の記憶に頼るだけでなく過去の支援内容を反映しながら、再入院や退院後のフォローも含め、個別最適化された支援活動を行っている。
- ・ 医療機関に配布しているタブレット端末に Microsoft Teams を設定し医療関係者との日々の活動連絡や、子どもの学習用プリントの写真共有などを行っている。
- ・ 支援内容は知育ゲームによる交流、長期療養中の復学に関する相談や、学習支援、学校生活での配慮事項の伝え方など、長期療養経験のある支援員を中心に幅広く行った。
- ・ 学習支援ボランティアなど、支援従事者は年間延べ 350 名に達した。
- ・ すべての支援活動をオンラインに変更されたが、支援拠点では感染症対策を徹底して、ICT を活用した学習や交流の支援活動を実施した。



岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援業務

体験交流イベント

感染拡大防止としてステイホーム中の子どもや家族も参加できる YouTube 配信や、ZOOM の同時双方向で実施した。企画・運営はスタッフや学習支援ボランティアを中心に行った。

- タッチダウンチャレンジ 2021（科学工作）
開催日時：2021 年 4 月 29 日 参加者：10 名
- 大原美術館オンラインツアー
開催日時：2021 年 7 月 18 日 参加者：18 名
- ポケサポ夏祭り 2021&ビンゴ大会
開催日時：2021 年 8 月 29 日 参加者：30 名

- ポケサポクリスマス会 2021
開催日時：2021 年 12 月 18 日 参加者：18 名
- ポケサポデー（土曜日オンライン交流会）
開催日時：6 月 19 日、10 月 31 日、2 月 26 日
参加者：小学生から高校生まで各 15 名程度



▲ ポケサポデーでのオンライン交流の様子

きょうだい・家族ケア

緊急事態宣言や感染症対策のため、様々な制限がある中で、少しでも現状の子どもたちの笑顔に繋がる、私たちができることを検討して、入院中の子どもたちや放課後等デイサービスを利用する子どもたち、子どもの居場所づくりをする団体等にお菓子や知育玩具を届ける「笑顔のおすそわけプロジェクト」を実施した。

【協力いただいた団体等】（順不同・敬称略）

- ・ NPO 法人杜の家「りゅうそう放課後ラボ」
- ・ 一般社団法人
子どもソーシャルワークセンターつばさ
- ・ 岡山済生会総合病院
- ・ NPO 法人ふれあいサポートちやていず
- ・ NPO 法人あかね

株式会社 BATON 様よりバックパックを 73 個寄贈いただき、ポケットサポートの利用者、県内支援学校の病弱部、放課後等デイサービスを利用する子どもたちやきょうだいへ配布した。



株式会社BATON様よりバックパック73個をポケットサポートに寄付いただきました！

▲5月28日にオンラインで贈呈式を開催



▲子どもたちから届いた着用写真

オンライン支援の岡山モデル構築(遠隔操作ロボット試作)

- ・ ベネッセこども基金の助成により、遠隔授業の補助等オンライン支援で利用できる首振り型のロボットを試作した。
- ・ 試作したロボットは、他地域で当団体と同様に病弱児支援を行う2団体に体験モニターとして協力いただき、開発フィードバックを行った。
- ・ 地元の山陽新聞にも取り上げられ、プレスリリース配信「PR TIMES」を通じても3回に分けて、病弱児に関する支援拡充を目的とした情報発信を実施した。



▲2022年2月17日（木）山陽新聞朝刊掲載

長期療養を必要とする中高生が安心して学べる環境整備

- ・みんなでつくる財団おかやまからの助成により、県内公立学校の学校現場で主に使用されている chromebook を当団体職員向けにも導入。
- ・職員向け研修を行い、遠隔授業サポートの相談案件の際に動作確認や操作説明で活用した。
- ・当団体が学習支援等をした中高生 3 名の事例をもとに当事者にインタビューを行った事例集「未来への夢と希望」を製作。県内約 70 校の高等学校へ配布し、WEB 上では無料配布した。



**闘病している
現役中高生の
生の声**を掲載

認定NPO法人
ポケットサポートが制作

▲制作した冊子（B5 サイズ、全 12 ページ）

講師派遣事業

2021 年度は年間 13 回の講演等を実施できた。新型コロナウイルス感染症の影響により、ほぼオンラインの開催となった。前年度より聴講人数は増加しており、大学の特別講義に加え、他地域での病弱児支援に関する研修の講師、学会発表など幅広い依頼に対応した。内容は自身の闘病経験に関することや、岡山での病弱児支援の取組、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業など多岐にわたっている。

- ①5月10日：岡山大学教育学部
特別支援教育学講座／zoom 開催・参加 60 名
- ②7月3日：北九州市小児慢性特定疾病児童等自立支援事業「学習支援ボランティアと患児・家族の交流会」／zoom 開催・参加 8 名
- ③8月3日：令和 3 年度岡山県中学校教育研究会岡山支部養護教諭研修会
病気を抱える子どもたちの教育支援について
参加者：市内中学校養護教諭・保健主事 45 名
場 所：岡山ふれあいセンター
- ④8月9日：岡山大学経済学部
オープンキャンパス／zoom 開催・500 名

- ⑤8月29日：未来 ISSEY ボランティア研修会
第 3 回「伝える」研修会／zoom 開催・17 名
- ⑥10月15日：第 62 回日本母性衛生学会総会・
学術集会ワークショップ オンデマンド配信
- ⑦10月30日：第 52 回全国学校保健学校医大会
岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援
の取り組み／zoom 開催・参加者 約 80 名
- ⑧10月30日 ノートルダム清心女子大学
zoom 開催・参加者 約 60 名
- ⑨11月20日：北九州市小児慢性特定疾病児童等
自立支援事業「北九州市の小児慢性特定疾病
児童等支援に関わる研修会」／zoom 開催 12 名
- ⑩12月18日：北九州市小児慢性特定疾病支援室
学習支援ボランティアと患児・家族の交流会
zoom 開催・参加者 9 名
- ⑪3月1日：国立特別支援教育総合研究所
第三期特別支援教育専門研修 [病弱専修プロ
グラム]／zoom 開催・参加者 9 名
- ⑫3月12日：一般社団法人てくてくぴあねっと
病気のせいにしない育児がしたい
zoom 開催・参加者 123 名

⑬3月19日：ベネッセこども基金 Meetup#3

病気なのに、学びって必要なの？／参加 121名

著作

- ①岩波ジュニアスタートブックス「支える、支えられる、支え合う」病気を抱えていても自分らしくいられるように／岩波書店

②季刊 特別支援教育 No.82

子供をささえるネットワーク

「教育・医療・行政と連携する認定NPO法人
ポケットサポートの取組」文部科学省初等中等
教育局特別支援教育課／著

ご協力いただいた皆様に感謝を申し上げます。

多職種連携による地域支援ネットワークづくり

病気の子どもに携わる多職種が連携するための勉強会「子どもたちに生きる力を！私たちに今できること」と題し全3回のYouTubeライブ配信によりネットワークづくりを実施した。

第1回：8月7日（土）「入院中の支援や、退院後の復学支援について」

講師：岡山医療センター 樋口 洋介 先生
参加者：196名（YouTubeライブ配信視聴者）

第2回：10月23日（土）「入院や連携が必要な小児がんの子どもたちについて」

講師：倉敷中央病院 納富 誠司郎 先生
参加者：130名（YouTubeライブ配信視聴者）

第3回：1月29日（土）「当事者目線で考える」

講師：倉敷市立庄中学校 難波 真 先生

先天性心疾患当事者 古賀 充容さん

参加者：143名（YouTubeライブ配信視聴者）

実際の病院で行われている復学支援について、ポケットサポートとの連携事例、院内学級の様子など現場感のある内容、先生の質問に対する的確な答えなど、満足度の高い内容となった。

すべての回でライブチャットによる質問にも回答を行い、チャット内でも院内学級や支援学校の教員などをはじめとする学校関係者、医療関係者や当事者などが活発に意見交換を行う様子が見られた。

ひとりじゃないよ みんなで応援BOX 配布プロジェクト

当事者家族を応援すると同時に、様々な関係機関と繋がる機会を増やすことを目的に「応援BOX」を作成した。内容は環境に配慮した素材のトートバッグやエコバッグ、アルコール除菌シート、子どもたちには駄菓子や応援メッセージを同封した。89名に送付して繋がりを続けた。

また、当団体と繋がるきっかけを増やすことを目的とし、当事者が検索する想定キーワードから、検索連動型広告を掲載し特設ページを制作した。相談事例の紹介、保護者からの声、多職種連携での支援内容、相談窓口などを情報提供した。



▲みんなで応援BOXの内容物

運営に関する事項

(1) 総会

通常総会	開催日	2021年6月27日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2) ※オンライン
	出席	社員総数27名のうち22名出席(表決委任状を含む)
	決議事項	・2020年度(令和2年度・第6期)事業報告及び決算報告について ・活動内容の拡大に伴う定款変更について

(2) 理事会

第1回	開催日	2021年4月24日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2) ※オンライン
	出席	理事3名(本人出席3名、委任状0名、欠席0名)
	決議事項	・令和3年度の事業計画及び予算案について ・定款変更内容の検討について
第2回	開催日	2021年6月27日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2) ※オンライン
	出席	理事3名(本人出席3名、委任状0名、欠席0名)
	決議事項	・定款変更に伴う事業計画について ・役員改選について
第3回	開催日	2021年6月29日(月)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2) ※オンライン
	出席	理事3名(本人出席3名、委任状0名、欠席0名)
	決議事項	・役員任期満了による改選の件 ・理事長の互選の件
第4回	開催日	2021年7月14日(水)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2) ※オンライン
	出席	理事3名(本人出席3名、委任状0名、欠席0名)
	決議事項	・役員を選任について
第5回	開催日	2021年12月11日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2) ※オンライン
	出席	理事3名(本人出席3名、委任状0名、欠席0名)
	決議事項	・電子帳簿保存法の改正に伴う電子取引データの保存に関する規程について ・監事を選任について

第6回	開催日	2022年2月5日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2) ※オンライン
	出席	理事3名(本人出席3名、委任状0名、欠席0名)
	決議事項	・事務所の光熱費について
第7回	開催日	2022年3月26日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2) ※オンライン
	出席	理事3名(本人出席3名、委任状0名、欠席0名)、監事1名
	決議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・監事の辞任及び新任について ・給与規程に基づいた諸手当の支給について ・2022年度の役員報酬年額について ・2022年度の事業計画及び活動予算について

(3) 補助金・助成金

補助・助成機関名（順不同）	内 容	金 額
公益財団法人ベネッセこども基金	GIGA スクール構想と組み合わせた 病気を抱える児童生徒の地域連携支援	1,800,000
Yahoo!基金	あなたは一人じゃない！ 支援者と繋がるプロジェクト	900,000
タケダ・ウェルビーイング・ プログラム	コロナ禍における長期療養児への WEBアウトリーチ事業	800,000
公益財団法人みんなでつくる財団 おかやま	長期療養が必要な中高生が安心して学べる 環境整備事業	350,000
MDRT Foundation-Japan	みんなで一緒に学ぼう SDGs YouTube ライブ配信（2022年5月開催）	200,000
岡山市市民活動支援金	コロナ禍における病気療養児の支援拡充	100,000
岡山市人権啓発補助金	みんなで作り広める人権啓発グッズ制作事業	427,541

(4) 受託事業

委託元	内 容	金 額
岡山市	岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援業務	2,000,000

(5) 外部委員会への参加など

委員会等名（順不同）	委員名
SDGs ネットワークおかやま 副会長	三好 祐也
岡山県特別支援教育専門家チーム員	三好 祐也
岡山県特別支援教育専門家チーム員	奥田 修平
岡山県院内学級連絡協議会	三好 祐也